

『学校と関係機関との連携の在り方 ～非行・被害を中心に～』

講師：石橋 昭良 氏（非行臨床研究所代表 元文教大学人間科学部教授）

日時：11 月 12 日（日）9 時～12 時 形式：オンライン（Zoom）

校内で児童・生徒が非行や事件に巻き込まれた際の対応をどのようにしていくと、本人も周囲も立ち直れるのでしょうか。第4回研修会は、元警視庁少年育成課副参事（心理職）石橋昭良先生をお迎えして、非行臨床の専門家のお立場から非行少年・被害少年の立ち直り支援のために学校はどのようにすると関係機関とよりよい連携を行えるのかを研修しました。

「非行と被害の現状」

石橋先生が示してくださった資料から、非行と被害の現状がこれまでの「非行」として外から見えやすかったものが、「校内暴力」「家庭内暴力」「虐待」「SNS による非接触型事件」など「見えにくい」ものになってきていることが分かりました。その背景に、子どもの個人的要因として「コミュニケーションスキルの低下」や「気持ちや感情を出さない表面的な人間関係」、「考え方や物のとらえ方に偏りや課題がある」などがあり、また、ライフスタイルの変化としては、以前なら生活の中で身に着けて来た「社会性」を学習する機会が減っていることにより、子ども達が学校や地域でも孤立しがちだということです。そのため、被害があってもわかりにくく、日常から大人とつながっていないことなどもあり、深刻な状況になっても介入がしにくい状態があります。石橋先生が「介入がうまくいったケースは、日ごろから学校の中や地域での人間関係がつながっていたことが多い」と指摘されるように、「つながれていない関係」や「キレかかってしまっている関係」を日常的につなぎなおしておくことが重要です。

「問題の発生・認知」から「連携」までの一般の流れ（石橋先生からいただいた資料から）

ステップ1：問題の発生・認知（危機管理の視点での 迅速な対応が必要）

→ステップ2：事実関係と背景の把握（情報収集：背景が複雑なため、どの情報を集めて、どこに報告、連携が必要かを

考えながら方法収集を行う必要がある）

→ステップ3：関係者による「事案の見立て」

今までの経験則に頼るのではなく、関係機関にも相談を。

→ステップ4：校内での検討（指導方針、目標、役割分担）

→ステップ5：連携する機関の決定

→ステップ6：関係機関とのケース検討

担任や担当者だけではなく、校内チームで。関係機関に丸投げしない！

ここでポイントになるのは、「ステップ3」です。SNS や性非行、薬物、家庭内の問題、学校での指導が困難な事例など、これまでの経験値では「見立て」がしにくい問題の場合は、ネットワークを用いて可能な限り多角的な情報収集をすることが大切であり「エコマップ」という対象者と関係者や関係機関の関係図を作っておくと、その後の適切な支援につながります。また、この時点で関係機関にためらわずに相談できるような「関係作り」をしておくことが大切です。学校が関係機関と連携する際、関係機関が問題を把握するのに情報が十分開示されなかったり、連携先に任せきってしまったというケースも多いそうです。グループワークでは児童生徒の見立ての難しさや校内の「サポートチーム」をどのように作っていくかを話題に意見交換をしました。私学の場合は、校内の生徒指導体制がそれぞれ異なり、初期段階で気づいて対応しようとしても、学校内部での指導で終わってしまうこともあり、様々な意見が交換されました。石橋先生からは、見立てや連携のために専門家との関係を築いておくことも助言され、警察や矯正機関での相談やスクールロイヤーなども紹介されましたが、子ども自身が援助要請をだせるように、援助要請ができない子どもには「困っているのに助けを求められない特性」を理解した上で、「頼ることと自立」の両方を尊重する対応が大切だとも教えていただきました。



「解決のための有用な視点」

これまでは原因論・対処療法が中心でしたが、これからは逆境をどう生きるか、うまく適応していく力(レジリエンス)を育てることが望ましい支援です。そのためには児童・生徒だけではなく保護者の支援も行っていくことが不可欠です。保護者の抱える問題も多様化しています。学校だけでは支えられない問題の解決にも関係機関との連携が重要になっているのです。

「実効性のある連携に向けて」

どのケースでも一番重要なのは、子どもにとって最善の利益を考えることです。医療・司法・教育・福祉など各機関の機能や専門性を理解し、子どもの状態に合わせて組み合わせていくことが大切なこととなります。関係機関に頼り切るのではなく、学校が引き受けた役割を校内で共有し、実行していくために校内体制の確認をしていきましょう。



<参加者から>（一部抜粋）



- ・学校が関係機関と連携しようとするときに、なぜうまくいかないのか、どんなことに気を付けたら良いのかを具体的に示していただき、たいへん勉強になりました。子どもの問題行動と心理、事案の見立て、連携の留意点は特に参考になりました。現場に持ち帰って試してみたいと思います。
- ・各関係機関との連携のために、校内での共通理解、共通認識の重要性を改めて感じました。
- ・学校でできる啓発活動の見直しの重要性を実感しました。
- ・講義やブレイクアウトルームでの先生方のお話から、実際の学校の内部で何が起きているのかを聞くことができ、更に現場で起きている課題が外部連携が進んでいないという点であったので、今回参加して理解が深まりました。
- ・「学校は陸の孤島」だと改めて感じます。どこの誰と連携するという知識やシステム作りが必要なんだと感じました。